

코리아国際学園 広報誌

vol.17 2019.7

# 越境人

.....  
ekkyoujin



## CONTENTS

<特集> 2019 KISの取り組み  
KIS News / 学びのネットワーク  
アクティビティレポート

## 코리아国際学園中等部・高等部

코리아国際コース

国際バカロレア (IB) コース

日本留学コース

## 2 <特集> 2019 KISの取り組み

- ・ クラス紹介(高等部3年)
- ・ 今年度の取り組み ① 2019年度以降のカリキュラム紹介
  - ② 教育のICT化
  - ③ KISノート
- ・ 言語授業 コリア語を通してもう一人の自分に会おう  
4機能を意識した英語教育  
KISで学ぶフランス語  
人と人をつなぐ中国語
- ・ 座談会! KISの国際バカロレア(IB)教育

## 10 KIS News

- ・ 第2019年度KIS文化祭を実施
- ・ 図書館だより
- ・ 今年で創部3年目になるKISサッカー部

## 12 学びのネットワーク

- ・ 2018年スタディツアー:ピースワゴン in 西日本
- ・ 第2期龍安寺参道商店街応援隊 ~実践は思い通りにいかない!~
- ・ KIS English Camp
  - ・ 哲学カフェ
- ・ フィジールポート
  - ・ 近隣小学校との交流
- ・ 高等部1年生カナダ研修
  - ・ SDGs高校生フォーラムに参加

## 16 Activity Report

- ・ Have you ever heard about KIS読書会?
- ・ ドンアリ活動
- ・ 3言語スピーチ大会
- ・ 検定試験 ~挑むことをためらわないこと~



## 建学の精神

21世紀の国際社会は、グローバル化と情報化が加速する一方で、政治・経済・社会・文化のあらゆる面において、解決すべき人類共通の課題にも直面しています。とりわけ東アジアは、その集約的な地域のひとつとしてダイナミックな変化が予見される歴史的な転換期にあります。

こうした時代状況を未来に向けて切り拓いていくためには、なにより個性と多様性の尊重を基礎とした創造力の溢れる人間が求められています。言い換えれば、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間の育成にほかなりません。

コリア国際学園(KIS)は、在日コリアンをはじめとする多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に考え学ぶことができ、かつ確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として複数の国家・境界をまたぎ活躍できる、いわば「越境人」の育成を目指します。

コリア国際学園(KIS)は、すべての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、コリアにつながり、世界に開かれた国際学校として、世界と東アジアの持続可能な発展に貢献します。

## 教育理念

### 多文化共生

民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。

### 人権と平和

人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。

### 自由と創造

真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。



高3の3人がKISの学校生活について語ります

みへ (中国からの留学生)

私はKISに入学して5年になります。この5年間で、私は高3のクラスのみならず色々な体験をしてきました。このクラスだからこそ体験できたものも、いっぱいありました。私たちのクラスは、中1の時からほぼ毎年留学生が入ってきて、今はもう当初の2倍くらいの人数になりました。他の学校と違って、このクラスはグローバルで、海外からの学生たちをすぐに受け入れてくれたり、他国の文化にちゃんと興味を持ってくれたりします。

私が初めてKISに入った時、新しいことがいっぱいあり過ぎて辛い時もありましたが、クラスメイトのみんなが、多くの面でサポートしてくれたおかげで、今こうやって日本での生活に慣れることができました。留学生が、現地の生活に慣れなくてすぐ帰国するという話をよく聞きますが、私は、こんなに優しい友人たちに恵まれて、本当に良かったと思います。優しいのがこのクラスの良いところだと思います。みんなが、「他人思い」だということ、このクラスの宝物だと思います。このクラスで中学校生活と高校生活を過ごせて、本当に良かったと思います。

はな (前学生会長)

私は中1からKISに通っています。私にとって、ここで過ごした6年間は、忘れられない思い出や特別な経験ばかりでした。特に、KISではクラス替えがないので、3年間あるいは6年間を共にした仲間たちには、いろいろな場面で助けてもらっています。私は高2の時に学生会長をして

いました。会長をする中で、クラスの仲間達の協力は本当に大きな力になりました。行事ごとに、積極的に参加してくれたり、学生会のメンバーがしんどい時には、心配や励ましを、たくさんしてくれたりしました。

私のクラスメイトは、自分のアイデンティティを確立し、物事をしっかりと多面的にとらえることができる力を持っています。今までも、沢山、大変なことやしんどいことがありました。しかし、どんな大きな壁にぶつかっても、しっかりと対応できる高3のみんなは、私にとって最高の仲間です。私たちのクラスは、遠足を計画したり、誕生日パーティーを毎月行ったり、6年間いても飽きない、楽しいクラスです。そんなクラスとも、もう少しでお別れですが、卒業までの残り少ない日々を無駄にしないように、充実した学校生活を送りたいです。



▲ 中1のある日

よんびん (サッカー部、韓国からの留学生)

私は2017年4月に、韓国から日本へ留学にきました。最初は、とても緊張すると共に、ワクワクもしていました。韓国では、サッカーをしたのならサッカーだけに専念して大学に行きますが、KISでは、サッカーと言語の両方を学ぶことができます。将来のことを考え、日本留学が私の

人生において、メリットが多いのではないかと思います。日本留学を決めました。

日本に来る前は、ひらがなだけしか知らない状態だったので、日本でうまくやっていくことができるかどうか心配もありましたが、学校の友達が親切にしてくれて、日本人の友達と一緒に話もして、日本語もしゃべれるようになりました。日本に留学に来たことを後悔することなく、楽しい学校生活を送っています。サッカー部での活動も、やるべきことをしっかりやれば、必ず良い結果につながると信じて、練習に励んでいます。今の私の目標は、日本の大学に進学することです。その目標を達成するために、頑張ります。

特集 2019 KISのとりくみ クラス紹介  
 コリア国際学園でいちばんにぎやかな高等部3年を張泰永、許美慧が紹介します!



▲ 中2韓国研修

現在、高3には22人の色々な国籍を持った学生がいます。在日コリアンや日本人、韓国人、中国人、アメリカ人などです。クラスの約4割が、留学生です。私たちはこのようなインターナショナルな環境で、日々楽しい学校生活を送っています。この6年間、私たちはKISに通いながらたくさん行事に参加し、たくさんの経験をさせていただきました。その一部を紹介したいと思います。

高2 誕生日サプライズ

毎月のあるホームルームの時間を使って、その月に誕生日を迎えるクラスメイトに、クラスのみんなで作った誕生日プレゼントを渡しました。プレゼントの内容は、月ごとに変わります。アルバムやメッセージボード、サプライズボックス、ビデオメッセージなどがあります。毎月、本人達にバレンないように、みんなは隙を見つけ、休み時間の間に使わない教室に入り、メッセージカードを書いたりしていました。もう側は、もちろんびっくりして喜んでくれましたが、みんなで

高2だけの遠足 in 嵐山

この遠足は、学校行事ではなく自分たちで計画したものです。高2は学年での大きな行事がなく、何かみんなでいい思い出を作りたいと、遠足を企画しました。自由参加にもかかわらず、多くのクラスメイトが参加してくれて、最高の1日になりました。この日の嵐山は、とても暑かったのですが、みんな朝早くから集まってくれました。担任の先生が、チケットを買ってきてくれてトロッコ列車にも乗り、竹林にも行き、写真もたくさん撮りました。公園では、先生が〇×クイズを出してくれて、とても盛り上がりました。学校行事ではなかったけれど、高2の最高の思い出になりました。

高3 最後の文化祭



▲ 高3文化祭

今年の文化祭は、学園内で全ての舞台と舞台を並行して行うという、初めての企画でした。また、今までは学年ごとに行っていた屋台も、他の学年と一緒にすることに、不安な点もありましたが、先輩たちがとてもしっかりして、不安がすべて消え去りました。KISの文化祭は、本当に学生みんなの力を合わせて作っているのだな、と改めて実感することができました。最後のみんなでの舞台(ダンス)も大成功に終わって、とても嬉しかったです。今までは違う点もたくさんあり、戸惑うこともたくさんありましたが、みんなで一致団結して最後の文化祭を成功させることができ、本当に楽しかったです。

中3 修学旅行

例年、修学旅行は学生たちで行き先を決めています。この年は、4泊5日の日程で韓国の釜山に行きました。修学旅行に行く前に、国際市場が舞台となっている 국제시장 (国際市場で会いましょう) という映画を見てから、実際に国際市場に行きました。事前に国際市場について知ってから行ったので、より記憶に残り、より楽しめました。一番印象に残っているのは、噴水です。市内観光を班別にし、観光が終わって噴水ショーを見るために集合場所みんなが集まると、担任の先生からのサプライズで、噴水に「KIS 3 사랑한다」という文字が浮かんで、とても感動しました。



▲ 高2カナダ研修

誰かのために力を合わせて準備するところが、クラスのみんなの記憶に、一番残ったと思います。

2019年度以降の  
カリキュラム紹介

今回のカリキュラムの基本的な内容は、中高共にKISの特徴をより鮮明にしているという点です。

まず、中等部においては、従来のレベル別の英語の時数に加え、英文法の時間を各学年別に1時間配置し、文法の強化を図りました。放課後の補習授業を入れると英語は週7時間になります。

更に、今までの3言語教育に加え、2年生で中国語、3年生でフランス語の科目を設置して、より幅広く世界の言語に触れ合う機会を設けました。早い段階から、多言

語に触れ合う機会を通して多文化への関心を養い、また将来の進路を考えるきっかけにしてもらえればと考えています。

また、リベラルアーツの授業内容を見直し、KISの教育理念である「多文化共生」、「人権と平和」、「自由と創造」を学ぶための授業（レクチャー、体験、フィールドワーク、発表）を主体的で双方向的な授業を目指します。

また、特別活動として、課内クラブの時間を週1時間設け、自分の関心のあるクラブ活動に参加してもらうことになりました。

次に、高等部ですが、どのコースも従来のレベル別の英語の時数に加え、英文法の時間を各学年別に2時間設け、英語は週7時間となり、放課後のTOEFL対策の時間を入れると週8時間になります。

また、高等部はコース別にカリキュラムは分かれます。

まず、国際バカロレア（IB）コースは、IBのディプロマ（日本語、ロシア語、英語、歴史、生物、数学、TOK）を1年の3学期より学習します。これ以外に、体育や多文化共生論の一般教科も学習することになります。

次に、日本留学コースですが、3年間を通して留学生日本語を軸に学びます。また、一般生と同じ一般教科も履修し、国内の大学受験にも備えます。

最後に、一般生のロシア国際コースですが、語学中心のカリキュラムで、英語・ロシア語・日本語で1年間32単位中16単位となり、半分を語学系の科目で占めます。全般的には、学習指導要領の必修履修科目

教育のICT化

の標準単位数を全てクリアしました。これにより、大学受験時における資格審査に支障をきたすことはありません。

また、従来のロシア学（在日ロシア人史、ロシア史）やKIS学（多文化共生論、時事討論、自己探求）も今まで以上に内容を充実させていきたいと思っています。（教頭 李相創）

情報システムと情報機器の発展により、社会はどんどん情報化していき、それに伴い学校教育の現場でも情報教育の推進と教育活動の情報化が進められてきました。

私自身はWindowsが発売される前、MS-DOSの時代から情報教育に関わるようになり、情報担当教員の研修や教育研究会の企画にも関わってきました。当時、話題になっていたことの1つが学校のコンピュータ室にどんな機種とソフトウェアを導入するかということでした。

その時期には互換機・DOSと呼ばれるパソコンやWindowsが登場していたのですが、ロシア語と日本語を混在させて利用する在日ロシア人のニーズには十分に対応できていませんでした。（詳細は省きます）社会はパソコンを持つていない人もWindowsを購入するほどのWindowsファイバーの時代でしたが、私の勤務校ではApple社のパソコンを導入しました。理由はただ一つ、「私たちの用途に合っているから」です。今でも基本的には同じ考え

未来につながるKISノート

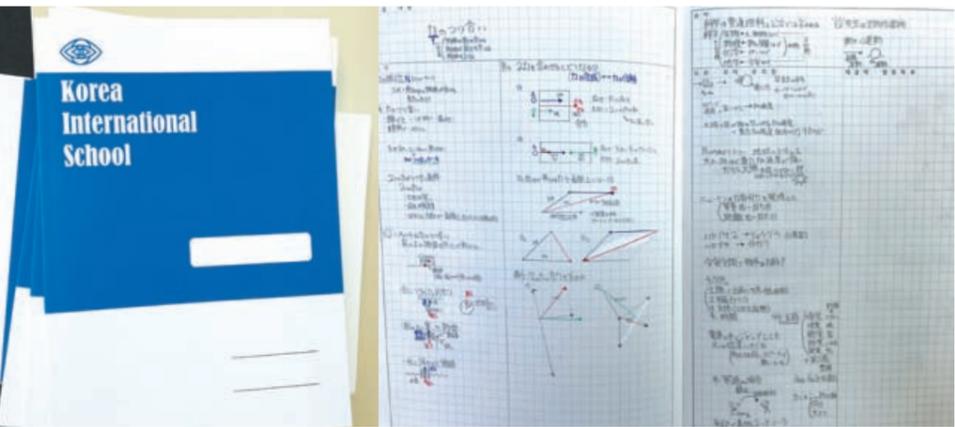
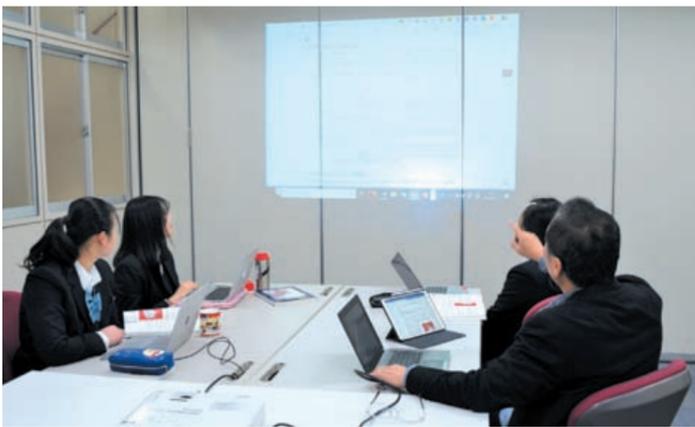
グローバル時代、パソコンやタブレットPCの普及で紙媒体のものはどんどんなくなっていきます。また、インターネットの普及により、様々な知識を簡単に手にすることもできます。このように、多くのものが飛躍的に効率よく手に入り、処理できるようになりました。いろんなことが簡単にできるようになった反面、丁寧さが求められる過程も簡単に済ませてしまうという弱点もあります。例えば、分からないことはすぐにインターネットで調べられるようになり、「分からない」と結論を出してしまう。

これは生徒たちの思考過程にも言えることです。教員の板書を写すだけのノートや、ノートを取らずにスマートフォンで黑板を撮影する。このような学習の過程には生徒たちの思考過程がありません。

そこでロシア国際学園では従来の板書法や筆記法を見直し、さらに学習能力や考える力を育む「KISノート」を作りました。ただ黑板に書かれたものをノートに移すのではなく、「要約する力」、「疑問点を見つける力」、その疑問点を「解決する力」を常に意識する筆記法です。

このノートは左ページと右ページがセットになっていきます。左側は授業中に板書などを書き込み、授業後学習者が復習を兼ねて右ページに要約、疑問、課題、注意点を書き込むようになっていきます。そのプロセスを経て、自ら解決策を模索する力を育てるのです。

情報や物、あらゆるものがありふれている時代の中で、教育現場で教師として、どのようにして「知的刺激」や「知的好奇心」を与えられるだろうか常に考えています。小さいことからコツコツと学習習慣を確立していきます。これから改良を続けて、よりいいノートしていきます。この「KISノート」を通して、他にはない、KIS生徒ならではの「考える力」を育てられると信じています。（教務部長 金浪芝）



これはGoogle社が提供する教育用総合グループウェアです。G Suiteを導入した理由は二つあります。一つはタブレットフォームを選ばないという点です。Windows, Mac, iPad, iPhone, Androidなど、ほとんどのプラットフォームから利用できます。これは前述の「道具は利用者が選ぶもの」という考えに沿っています。もう一つは情報化がもたらす時間と空間の超越を利用することです。最近では厳格な情報管理が求められますが、学校現場でも先生が学校のノートパソコンを学校外に持ち出して、それ



が盗まれるといった話も聞きます。ロシア国際学園では学校から先生方に貸与するパソコンの性能の問題やソフトウェアの問題などもあり、私物パソコンの使用も認めることにしました。その代わり学校関連の書類はすべてクラウド上に置き、各端末に保存しないこと。もちろんクラウド上の情報が壊れたり、紛失したりする恐れもありますが、それは学校内のハードディスクに保存しても同じことです。また、こうすることで学校外でも仕事をすることができ、ロシア国際学園の先生方は、研修や出張などで長期間学校を留守にすることもあるので、これはとても便利です。学校のコンピュータ室も廃止しました。これは、生徒たちが個人のパソコンやタブレット、スマートフォンを利用するようになったからです。スマートフォンを自由に使えるようにしてからいくつか問題もでてきました。授業中にSNSを利用したり、休み時間にゲームに熱中している生徒がいたり。しかし、これはスマホを回収することで解決するとは思っていません。まずは、ルールとモラルで解決していきたいと思っています。最後に、テクノロジは豊かさと効率をもたらしてくれます。業務の効率化、また生徒たちの学びが豊かになり、かつ、効率的になると時間ができます。その時間は、ぜひ、人間にしかできない活動に使ってほしいと思います。本を読み、思考し、人と出会い、話し合い。AIが人の仕事を奪う時代が来ると言われますが、私は人間の想像力は無限だと思っています。テクノロジー1、教育の情報化は人を豊かにしてこそ意味があると思います。（校長 金正泰）

## KISで学ぶフランス語

フランス語を話せる人は世界中で約2.3億人いると言われています。しかし、アジア人・オセアニア人はその内の0.3%程です。KISでは中等部3年生が今年2019年からフランスやフランス語圏の多様な文化や生活を理解し、実生活で役立つフランス語を身に付けることを目標に活動を始めました。目標はCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1、初級レベルです。現在、文法・語彙・発音等・基礎を押さえながら、「読み」「書き」「聞く」「話す」の練習を行っています。最終的にはがきを書く、自己紹介する、簡単な買い物をするなど、日常生活を問題なく過ごせるようフランス語を勉強しています。

フランス語は文法だけではなく、文章の綴りにおいてもルールが圧倒的に多いです。メモを書く時、カタカナで表記しがちだと学習者は言います。しかし、その場合、ネイティブの人には伝わりにくいところか、フランス語には聞こえないと思われる事が多いです。フランス語のアクセントは多種多様な為、書いて覚えるより実際に使って覚えた方が習得が早



いです。KISの中等部3年生は一切カタカナを使わずフランス語をそのまま聞き、読み書き、話をする事で覚える努力をしています。

この授業では、言語はあくまでも相手の気持ちを理解し、自分の気持ちを伝えるコミュニケーションツールだと考えています。正しいフランス語はもちろん大事ですが、『正しさ』よりも『伝わる』フランス語を目指すことで、話をする内に自然に正しいフランス語を話せるようになります。失敗を恐れず言葉を出し、上手く使えられなかった時だけ直していくことがフランス語を習得するポイントです。

(フランス語 リナ)

## 韓国語を通してもう一人の自分に出会おう

韓国国際学園の「韓国語」授業では、「第二言語として学習している学生」や「継承語として学習している学生」、「第一言語として学習している学生」など、様々な背景を持った学生が「韓国語」を媒介として「越境人」というゴールを目指して学習に励んでいます。そのため、単に韓国語に関する言語知識のみを学習していくのではなく、主に学生のニーズや動機づけに繋がるテーマを学習活動に取り入れ、学生とともに授業を作りあげています。授業の主人公は学生です。教師による一方的な教授ではなく、現実性の高い学習活動に学生の積極的な参加を導き、自ら問題解決へ至るような学習環境を作っています。このような授業で身に付けた言語スキルは、学校が提供する韓国研修、地域交流、論文報告会、弁論大会などで発揮できます。これは、学習者が主体となる「学習者中心」の教育を実践していることを意味します。

もう一つ、目指していることは、韓国語を通して、新たな自分に出会うことです。言語を学ぶということは、もう一人の自分に出会えるチャンスです。ただの言語スキルを身につけるプロセスではありません。

それぞれの言語はまったく同じ思考回路を経て表現されるわけではありません。言語がもつ特有の人格があります。イメージしやすく説明すると、日本には様々な方言が存在し、その方言ごとに性格というものを持っています。それと同じく、韓国語・英語・日本語・中国語には、それぞれ性格を持っていて、例えば、英語を話せば英語圏の人の思考回路を疑似体験するし、韓国語を話せば韓国系の人々の思考回路を疑似体験します。そのようにしなければ、ネイティブのように話すことができないからです。

韓国国際学園で目指す韓国語教育は、ただ韓国語で意思疎通できるレベルではありません。意思疎通を通して感情を共有し、感情の共有を通して新たな自分を見つけること、つまり、もう一人の自分に出会い、今までできなかったことに挑戦できる人材を育てることにあります。韓国語を通して、もう一人の自分に出会ってみませんか。精一杯お手伝いします。(教務部長 金浪芝)



また、英語の授業はレベル別でクラスを分けており、それぞれの能力にあったレベルのクラスで授業を受けることができます。英語の授業は、海外から取り寄せた教科書を使用し、ネイティブの先生によるオールイングリッシュの授業を展開しています。そのため、英語を聞いている時間が多く、英語で話す必要性も高く、リスニング能力やスピーキング能力を高めるには最適な環境であると言えるでしょう。

## 人と人をつなぐ中国語

母語以外の言語をマスターすることは、それだけ世界を眺める窓が一つ増えることになると言えます。

KISでは、既存の3言語に加え、中国語、フランス語をカリキュラムに取り入れ、4言語、5言語教育に挑む斬新な試みがなされています。これはまさにグローバル時代を生きる「越境人」に優位性を持たせる手助けになることです。実は、KISには、既に日本、韓国、アメリカ、中国等様々な文化的背景を持つ生徒がいて、学園内では日本語、韓国語、英語、中国語が自然に飛びかっています。

中国語の授業は入門、母語話者の中国語授業、国際バカロレア(IB)の授業等が行われています。中国語は発音が難しいといわれていますが、KISの生徒たちは基本的に3言語を操っているため、中国語が一つプラスされたところで何の問題にもならないのです。むしろその経験が生かされ、発音もきれいで、習得も早いです。生徒たちは授業で習った中国語を使って早速中国から来た留学生や先生にあいさつしたり、簡単な言葉で話しかけて



みたりなどして、好奇心に満ちた積極的な態度を見せています。今以前にまして学園の随所で中国語が聞こえるようになりました。また、生徒たちは中国語検定試験や、HSK(漢語水平試験)にも挑戦するという目標をもって頑張っています。

言語はコミュニケーションツールだけでなく、その言語を使う国や人の文化をもより深く知ることにもつながるのです。KISでは、中国研修プログラムを通して、悠久の歴史と文化の中国、ダイナミックな発展を遂げている中国との交流も深めようとしています。生徒たちが中国語というもう一つの言語をマスターすることで、異文化理解を深め、互いの違いを受け入れ、助け合い、協力し合い、言語や文化の壁を越え、世界に羽ばたくことを期待します。

ぜひとも一つでも多くの言語や文化を！新しい世界が見えます！  
まず中国語から！加油！  
(中国語 崔紅蘭)

## 4機能を意識した英語教育

KISでは、基礎英語力の定着とより高い英語運用能力を付けるために、今年度から英文法の授業をカリキュラムに導入しました。現在、中等部では英語の授業が週5コマ、英文法の授業が週1コマに加え、補習授業が週1コマの計7コマで運営されています。高等部は、英語の授業が週5コマ、英文法の授業が週2コマに加え、TOEFL対策補習授業が週1コマの計8コマとしっかり英語を学ぶことができます。



今年度からカリキュラムに導入された英文法の授業では、一般の学校で使われている教科書や参考書を使用し、中等部は英語の基礎文法の習得及び定着、高等部は英語の応用文法の習得及び大学入試対策を行っています。文法をマスターすれば、4技能(読む・聞く・話す・書く)が短期間でできるようになるでしょう。

さらに、KISには、英語を母語とするネイティブ教員だけでなく、英語を母語とする学生もいるため、学校生活の中で英語を使う場面も多く、授業以外にも常に英語運用能力を高めることができる環境にあります。

KISの学生が少しでも英語に興味を持ち、海外の人と意思疎通できる楽しさを知り、卒業時にそのまま英語圏へ進学ができる程度の英語力を習得できるように努めていきたいと思います。(英語科 向井明日香)

